

機関番号：36102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520586

研究課題名（和文） 尾道・西國寺における修学・付法活動の調査研究
—中・近世の聖教・典籍を中心として—研究課題名（英文） The investigation research of the learning activities of the Buddhism
and the initiation activities of the doctrine in Saikokuji-temple of
Onomichi City
—Around The Syougyou and book of the Buddhism in the medieval times
and modern times —

研究代表者

濱田 宣 (HAMADA AKIRA)

徳島文理大学・文学部・教授

研究者番号：20299332

研究成果の概要（和文）：

本研究は、広島県尾道市にある西國寺が所有する聖教を主とした文化財の全貌を明らかにして、西國寺の歴史と文化の本格的な解明を行うことを目的とする。西國寺は、約2万点の文化財を所蔵しており、それらのほとんどは初見資料である。これまでの調査（通算11年間）において、14,970点の資料について、調査記録カードを作成した。このたび、次のとおり、調査研究成果として調査研究報告書を出版した。

『西國寺調査研究報告書 第5号』（2008）では、聖教761点のデータを掲載した。『西國寺調査研究報告書 第6号』（2009）では、典籍683点のデータを掲載した。『西國寺調査研究報告書 第7号』（2010）では、典籍763点のデータを掲載した。『西國寺調査研究報告書 第8号』（2011）では、聖教794点のデータを掲載した。

聖教は、寺院において学問する活動の中で生まれたもので、国語学・国文学・日本史学等の諸学で、近年注目されている貴重な資料である。典籍は、西國寺における修学活動の状況を明らかにしていくことのできる貴重な資料である。近世～近代資料は、真言宗寺院としての西國寺の位置付けや、西國寺と信徒などとの関係を考察することのできるものである。

研究成果の概要（英文）：

This research clears the whole affair of the cultural properties that the Saikou-ji temple in Hiroshima Prefecture Onomichi City made Syougyou which it owned take the greater part, and aims at doing the real elucidation of the history and the culture in the Saikoku-ji temple. The Saikoku-ji temple owns about 20,000 points of cultural properties, and those most are the unseen materials. An investigation record card was made about the materials for 14,970 points in the investigation (total 11 years) until now. This time, an investigation research report was published as the next as an investigation research result.

Data on 761 points of Syougyou appeared in 『The Saikoku-ji temple investigation research report No. the 5』 (2008). Data on 683 points of Books appeared in 『The Saikoku-ji temple investigation research report No. the 6』 (2009). Date on 763 points of Books appeared in 『The Saikoku-ji temple investigation research report No. the 7』 (2010). Data on 794 points of Syougyou appeared in 『The Saikoku-ji temple investigation research report No. 8』 (2011).

Syougyou are the precious materials being watched by the newborn thing in the activities to study at the temple with various learning such as a study such as language learning, Japanese literature learning, Japanese history recently. Books are the precious materials which can do what clears the conditions of learning activities at the Saikoku-ji temple. The materials to hang in modern ages from modern times are the precious materials which can examine relatons between the Saikoku-ji temple and the believers, and what's more, ranking of the Saikoku-ji temple as Shingonsyuu-temples.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：仏教美術史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：仏教史学、歴史学、寺院史、仏教、聖教、尾道、仏教美術、地形分析、石造物

1. 研究開始当初の背景

広島県尾道市に所在する真言宗醍醐派摩尼山西國寺は、すでに平安時代中期に存在の知られる古刹である。古来、尾道が瀬戸内における海上交通の拠点として、また、山陽道の中央に位置することなどから、西國寺は領主階級や商工業者等から多くの尊崇を得てきた。

本寺には、永保2年(1082)に再興された際、讃岐善通寺の七仏薬師の一つであったものが伝来したという本尊の木造薬師如来坐像(重要文化財・平安時代初期作)など数点の寺宝を除いて、治暦2年(1066)、永和年間(1375～1378)の2度の大きな火災により、堂塔をはじめ諸什物が甚大なる損害を受けた。そのため、これ以前の寺歴を物語る資料は残念ながら乏しいが、これまでの調査において、至徳3年(1386)から永享元年(1429)にかけて再々建されて以降に集積された貴重な文物が数多く伝来していることがわかった。

その点数は約2万点にもなる。そして内容は、平安時代から近代に至る仏像・仏画をはじめ、仏具、典籍、聖教類、漢籍、古文書、書籍、世俗画、工芸品など多岐にわたっており、そのほとんどが初見資料であるため大変貴重なものであることは言うまでもない。さらに、境内には金堂(重要文化財・南北朝時代)、三重塔(重要文化財・室町時代)、山門(広島県重要文化財・室町時代)をはじめとする数々の堂塔や中・近世の石造物も豊富にある。

これまでに、平成13～15年度、続いて16～18年度において科学研究費補助金(基盤研究(C))を得て、現地調査・資料内容の電子データ化・データの公刊(『調査研究報告書』の刊行)を継続して進めてきた。

年間16日間前後の現地調査においては、資料の調書作成及び写真撮影、電子データ化に向けての原本照合と資料整理(保存管理措置)を随時行っている。また、日常的には大学内の文化財研究室において、資料調書(資料写真)の整理・電子データ化の準備・データの公刊に向けての作業などを行っている。

なお、資料内容の電子データ化は将来的なデータ公表に向けて、独自にデータ管理システムを構築している。

概ね、毎年1,000～1,500点の資料を現地調査し、平成18年度までに、11,029点の資料を調査し(資料カードの作成)、その内、5,294点の資料についてその内容を電子データ化、2,213点のデータを『調査研究報告書』により公刊した。

調査対象としている資料の中でも、寺院における修学活動のなかで生まれた教学・付法・法儀に関わる聖教や、仏典を中心とする和書・漢籍などからなる典籍は、仏教学はもちろん国語学や国文学、日本史学等の諸学において注目されるものである。

2. 研究の目的

本調査研究は、西國寺が所蔵する文化財を悉皆調査し、西國寺における中世・近世の修学・付法活動について追究し、西國寺の歴史と文化の全貌を明らかにし、地域史・瀬戸内文化史の解明にもつなげることにある。この悉皆調査は、単に西國寺所蔵文化財の全てを明らかにするのみに留めるのではなく、それらを整理し、後世への保存継承の手立てを講じることまでも視野に入れ、文化財保護に資することも目的としている。

また、所蔵文化財全般の内容を明らかにすることは当然のこととして、密教学はもちろん国語学・国文学、日本史学等の諸学におい

て注目される聖教類の内容を重点的に明らかにし、西國寺所蔵文化財の特質を考察することを目的とする。

3. 研究の方法

次のとおり、研究対象となる文化財についての分野を設定し、調査研究を進めた。

歴史資料：聖教、典籍〈仏典を含む〉、中世文書、近世資料、近代資料、石造物〈金石文〉

美術工芸品：仏像彫刻、仏教絵画、世俗画、仏具

立地環境：地形分析

年中行事等：宗教活動

これら各分野の調査研究内容と方法は次のとおりである。

〔歴史資料〕

* 聖教・典籍については、約1万点の未調査資料の調査作成・写真撮影等を行う。既に、現地調査を終えた資料については、資料内容の再確認調査を実施した上で、電子データ化とデータを『調査研究報告書』として刊行する。また、資料全体を通しての分析を進めていく。主として、①室町時代の西國寺の僧侶・法流・子院・行事等について、②室町時代から江戸時代初期にかけての西國寺と高野山金剛峰寺との関わりについて、③西國寺と密接な関わりのある安土桃山期の高野山僧朝意、江戸靈雲寺開山僧浄庵に関する資料の集積と分析、④中央及び地域の他寺院との交流についてである。

* 中世・近世・近代資料については、量的には少ないものではあるが、殊に近世～近代にかけての資料はほとんどが初見資料である。資料の内容によっては積文作成を行うとともに、それらの検討を通して、①真言宗寺院としての西國寺の位置付け、②広島藩における西國寺の位置付け、③西國寺における宗教行事、④西國寺と信徒などとの関係、⑤教部省の国民教化政策と地方寺院との関係、⑥大教宣布運動における地方寺院の活動等についての考察を進める。

* 石造物については、五輪塔・墓碑・石灯籠・石段などの実測・金石文の拓本などの調査を進めるとともに、近世以降のその他のものについても同様の調査を進めていく。また、西國寺境内以外の関連する石造物の調査も行う。

〔美術工芸品〕

* 仏像彫刻・仏教絵画については、それらに関わる銘文・記録等の集積を行い、

これらをもとに、多種多様な仏教美術の個々の内容分析や美術史上の位置づけ、西國寺の寺歴との関わり等についての分析を行う。

* 仏具については、指定文化財になっているもの以外は全く調査を行っていないため、その所在確認調査を行う。

〔立地環境〕

* 現在の西國寺伽藍についてその立地環境を調査研究するとともに、本寺の所在する西國寺山の地形環境についても分析する。また、中世における西國寺の立地について環境歴史的な観点から考察を行う。さらに、中国地方屈指の莊園である備後国大田莊の倉敷地になるなど、瀬戸内の重要な港湾都市としての尾道の中世における環境復原の作業を進める。

4. 研究成果

本研究期間（4年間）において研究成果は次のとおりである。

- ・調査資料総点数 3, 941点
- ・資料の電子データ化 1, 320点
- ・資料整理 3, 278点
- ・調査研究報告書掲載 3, 001点

①『西國寺調査研究報告書』第5号、2008、169頁（聖教761点掲載）

収録した聖教は、寺院における修学活動のなかで生まれた教学・付法・法儀に関わる貴重な資料であり、仏教学はもちろん国語学や国文学、日本史学等の諸学において注目されているものであるとともに、西國寺においては、中世から近世にかけての資料（古文書）が乏しいなか、その欠落部分を補うに余りある価値がある。

②『西國寺調査研究報告書』第6号、2009、166頁（典籍683点掲載）

収録した典籍のほとんどは仏典であるが、漢籍や和書も多く見られる。それらは聖教と共に西國寺における修学活動の状況を明らかにしていく上でも貴重なデータとなる。西國寺においては近世の資料（古文書）が乏しいなか、その欠落部分を補う価値がある。

③『西國寺調査研究報告書』第7号、2010、202頁（典籍763点掲載） 第6号と同様。

④『西國寺調査研究報告書』第8号、2011、205頁（聖教794点掲載） 第5号と同様。

5. 主な発表論文等

〔図書〕（計4件）

①『西國寺調査研究報告書』第5号、2008、169頁（聖教761点掲載）

- ②『西國寺調査研究報告書』第6号、2009、166頁（典籍683点掲載）
- ③『西國寺調査研究報告書』第7号、2010、202頁（典籍763点掲載）
- ④『西國寺調査研究報告書』第8号、2011、205頁（聖教794点掲載）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

濱田 宣 (HAMADA AKIRA)
徳島文理大学・文学部・教授
研究者番号：20299332

(2) 研究分担者

木原 溥幸 (KIHARA HIROYUKI)
徳島文理大学・文学部・教授
研究者番号：60035889
(H22：連携研究者)

加藤 優 (KATOU MASARU)
徳島文理大学・文学部・教授
研究者番号：20309694

古田 昇 (FURUTA NOBORU)
徳島文理大学・文学部・教授
研究者番号：3029333

青木 毅 (AOKI TAKESI)
徳島文理大学・文学部・准教授
研究者番号：70258317

佐藤 昭嗣 (SATO AKITUGU)
岡山商科大学・商学部・教授
研究者番号：30319933
(H20→H22：連携研究者)